

2021年12月9日 全8頁

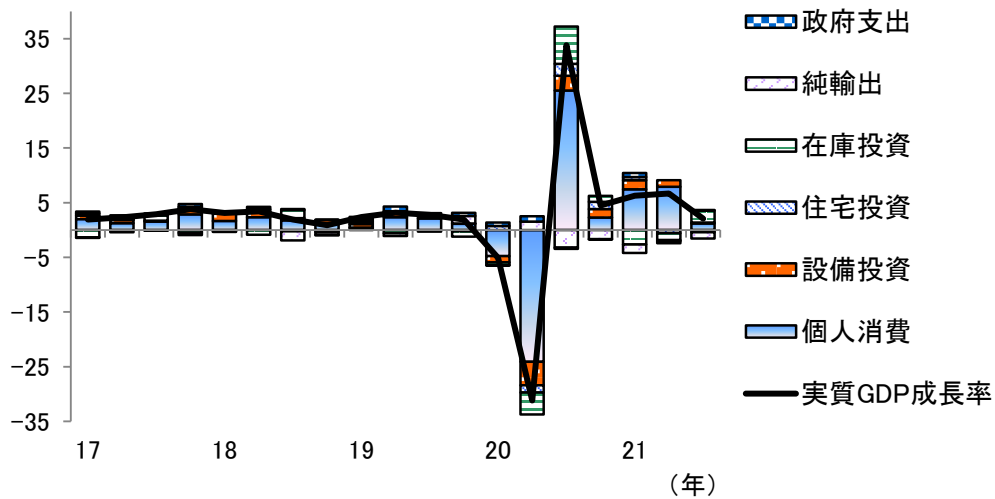
アメリカ経済グラフポケット (2021年12月号)

2021年12月7日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美
研究員 矢作 大祐

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



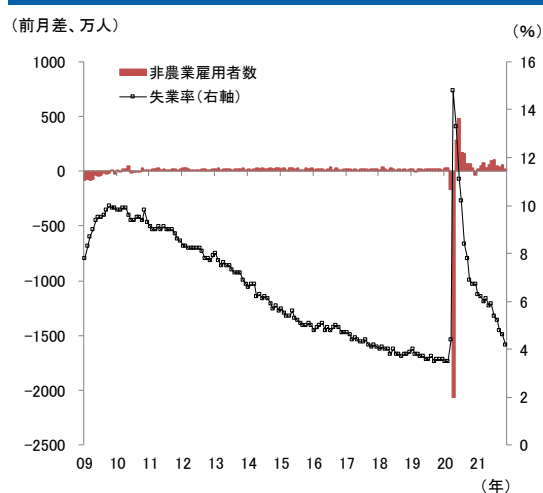
(前期比年率、%、%pt)	2019	2020				2021		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
国内総生産	1.9	-5.1	-31.2	33.8	4.5	6.3	6.7	2.1
個人消費	1.7	-6.9	-33.4	41.4	3.4	11.4	12.0	1.7
設備投資	-1.7	-8.1	-30.3	18.7	12.5	12.9	9.2	1.5
住宅投資	1.1	20.4	-30.7	59.9	34.4	13.3	-11.7	-8.3
政府支出	3.0	3.7	3.9	-2.1	-0.5	4.2	-2.0	0.9
輸出	1.2	-16.3	-59.9	54.5	22.5	-2.9	7.6	-3.0
輸入	-8.5	-13.1	-53.1	89.2	31.3	9.3	7.1	5.8
寄与度								
個人消費	1.1	-4.8	-24.1	25.5	2.3	7.4	7.9	1.2
設備投資	-0.2	-1.1	-4.3	2.7	1.6	1.7	1.2	0.2
住宅投資	0.0	0.7	-1.4	2.2	1.3	0.6	-0.6	-0.4
在庫投資	-1.0	-0.5	-4.0	6.8	1.1	-2.6	-1.3	2.1
政府支出	0.5	0.6	1.0	-0.2	-0.1	0.8	-0.4	0.2
輸出	0.2	-2.0	-8.3	4.6	2.1	-0.3	0.8	-0.3
輸入	1.3	1.9	9.9	-7.9	-3.7	-1.3	-1.0	-0.8

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

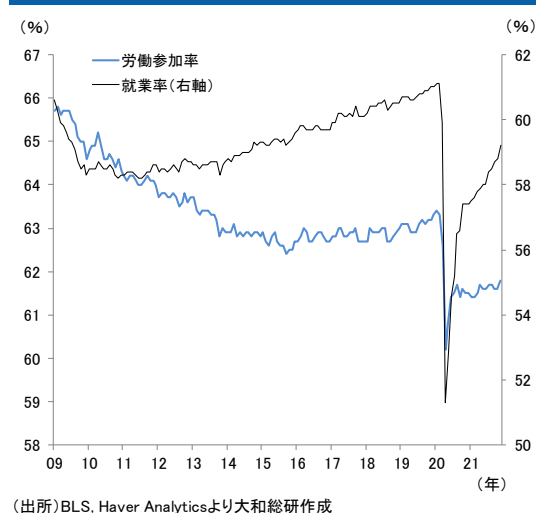
雇用環境¹

- ◆ 11月の失業率は4.2%になり、前月から0.4%pt減と大幅に低下した。失業率は5ヵ月連続で改善し、新型コロナウイルス禍前の2020年2月以来の低水準となった。
- ◆ 11月の非農業部門雇用者数の前月差は21.0万人増となった。サービス部門などで雇用者数が伸び悩み、前月から伸びが大きく鈍化したことで、2021年において最小の伸び幅にとどまった。
- ◆ 非農業部門雇用者数の前月差の6ヵ月平均は61.2万人増となった。

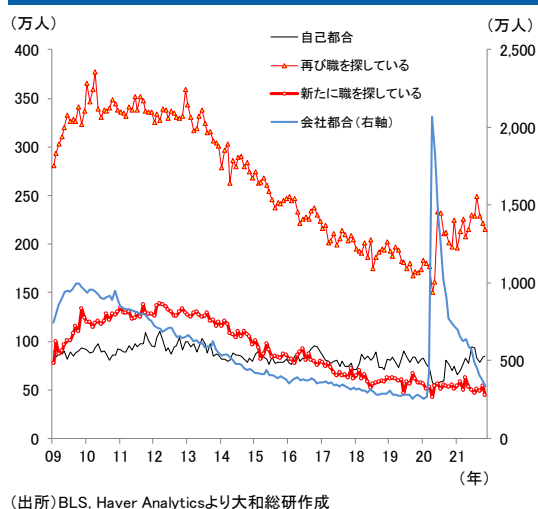
非農業雇用者数と失業率



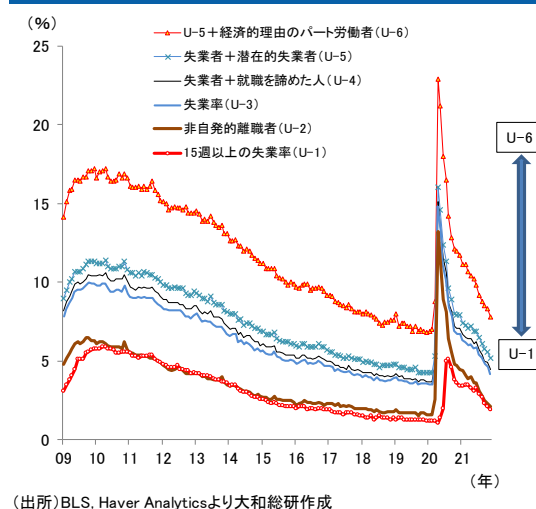
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

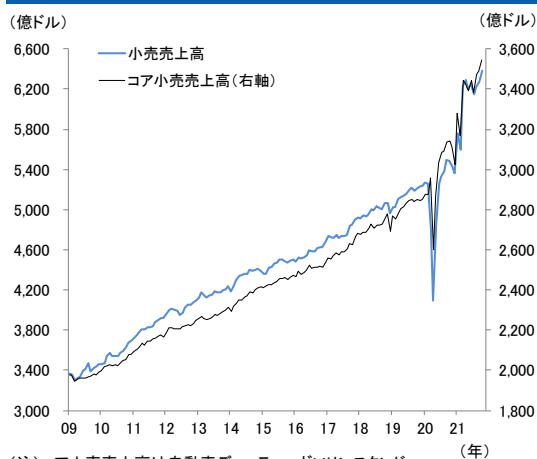


¹ 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「雇用者数は前月差+21.0万人と再び減速」(2021年12月6日)参照。https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20211206_022689.html

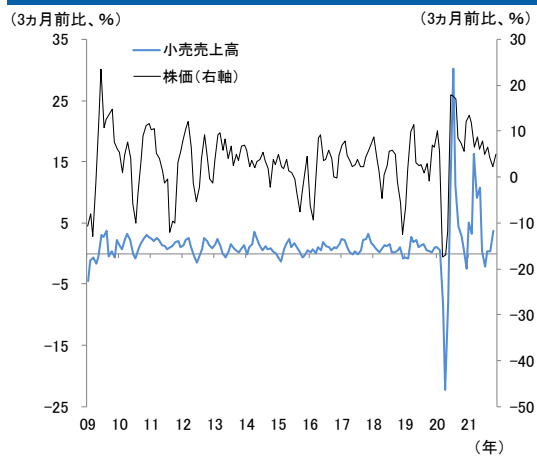
個人消費

- ◆ 10月の小売売上高は前月比1.7%増となった。多くの小売業者でホリデー商戦の開始時期が前倒しされたことに加え、供給制約による在庫不足を懸念する消費者がクリスマスショッピングを早目に始めたものとみられ、3ヵ月連続の増加となった。コア小売売上高は同1.6%増となり、3ヵ月連続で増加した。
- ◆ 11月の自動車販売台数は前月比0.2%減少し1,310万台となった。過去最低水準の在庫と高値が販売に影響し、販売台数は低水準が続いている。
- ◆ 11月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の71.7から67.4へと低下した。急激なインフレ率上昇とそれに対する有効な経済政策が実施されていないことへの懸念が高まり、前月から更に低下し、2011年11月以来の低水準となった。

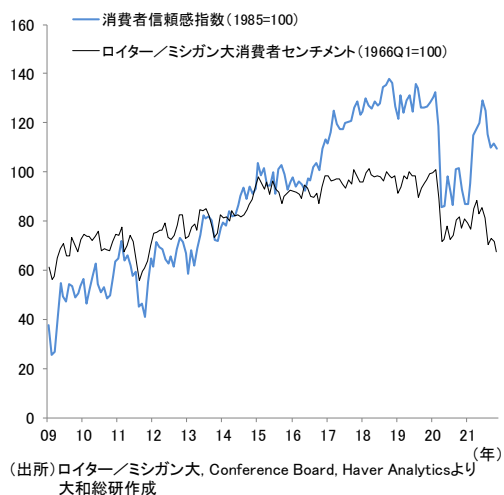
小売売上高の推移



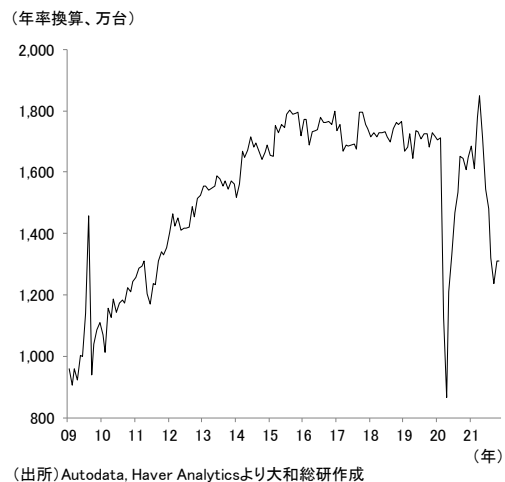
消費と株価



消費者マインド



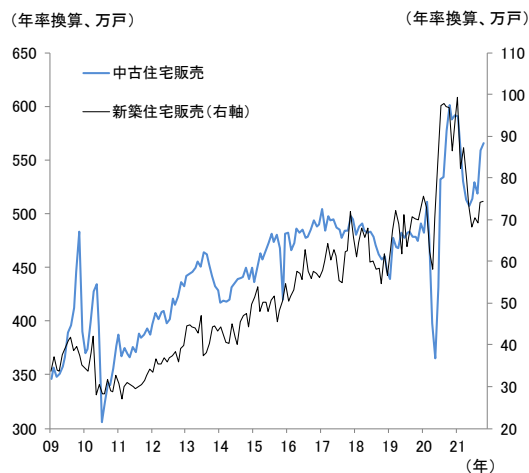
自動車販売台数



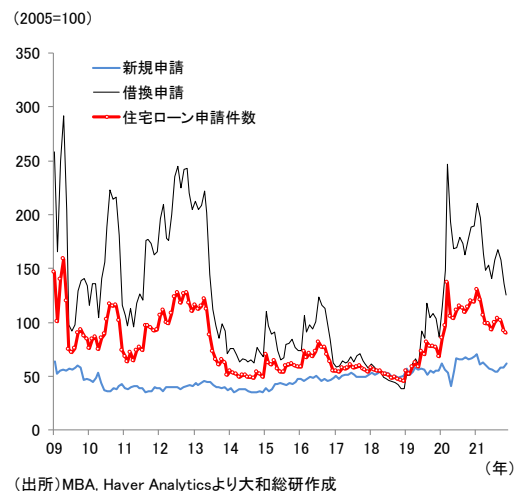
住宅市場

- ◆ 10月の新築住宅着工件数（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比0.7%減の年率換算152.0万戸となった。建設資材や労働力の不足などの影響が続いており、2ヵ月連続で減少した。
- ◆ 10月の中古住宅販売件数（一戸建て）は、前月比1.3%増の年率換算566.0万戸であった。住宅価格の上昇や低水準の在庫が懸念される一方で住宅需要は堅調さを維持し、2ヵ月連続で増加した。
- ◆ 10月の新築住宅販売件数（一戸建て）は、前月比0.4%増の年率換算74.5万戸となった。強い需要に加えて在庫が改善し、2ヵ月連続の増加となった。
- ◆ 9月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から1.0%上昇した。価格は上昇基調にあるが、住宅需給の逼迫が改善されているものとみられ、3ヵ月連続で上昇率が鈍化した。

住宅販売（一戸建て）



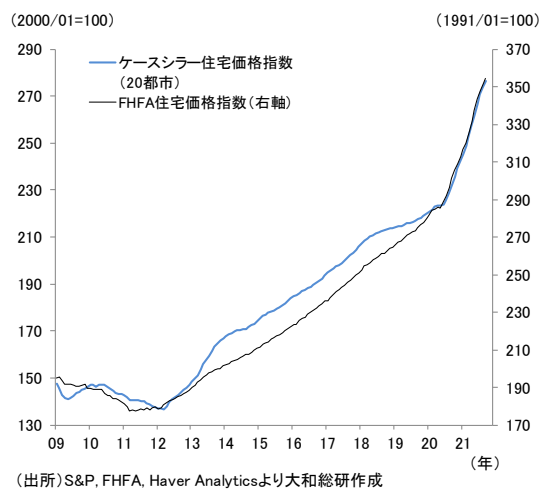
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



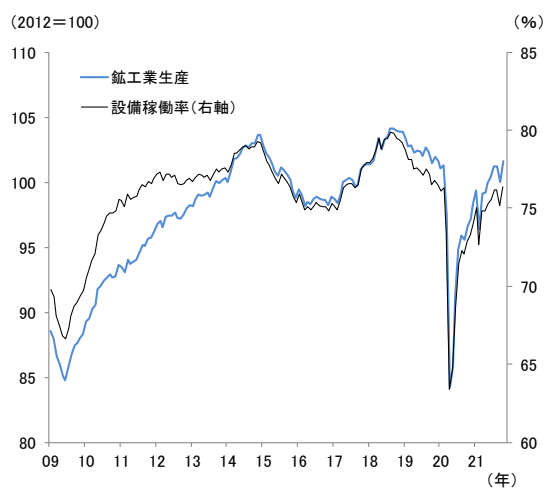
住宅価格



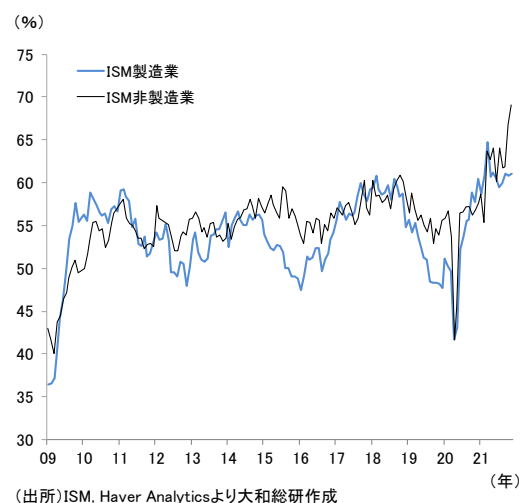
企業動向

- ◆ 10月の鉱工業生産指数は前月比1.6%上昇し、3月以来の大幅な伸びとなった。ハリケーン・アイダの影響が薄れたことなどから、生産指数全体の約75%を占める製造業（SICベース）が自動車・同部品の生産回復により同1.2%上昇したほか、鉱業及び公益も上昇した。
- ◆ 10月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比0.7%増となった。製造業の堅調さが持続し8ヵ月連続で増加した。
- ◆ 11月のISM製造業指数は、前月から0.3%pt上昇の61.1%となった。供給網の制約が若干緩和したほか、堅調な需要に支えられ、3ヵ月連続で60%超の高水準となった。非製造業指数は前月から2.4%pt上昇の69.1%となり、3ヵ月連続で上昇し、前月に続いて統計開始以来最高水準を記録した。

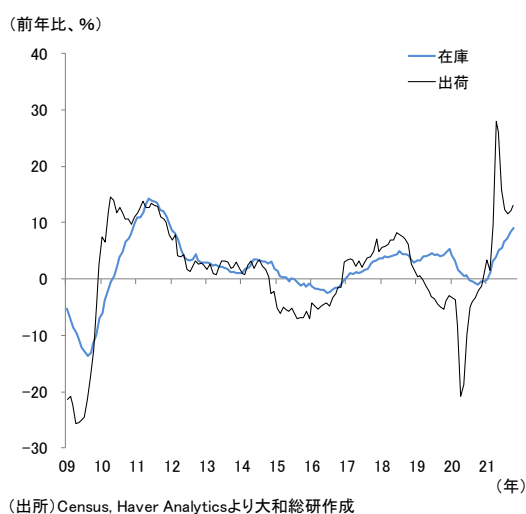
鉱工業生産と設備稼働率



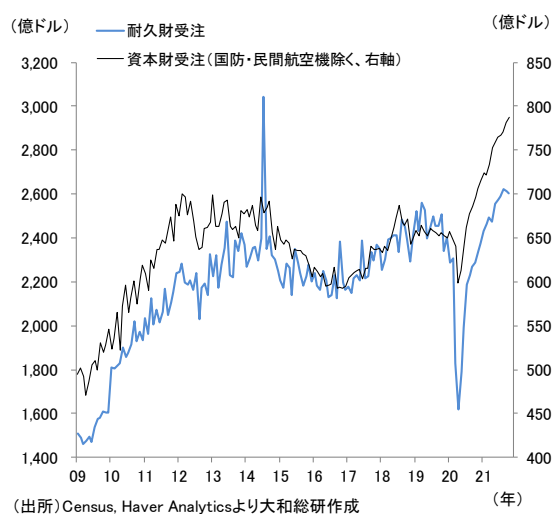
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



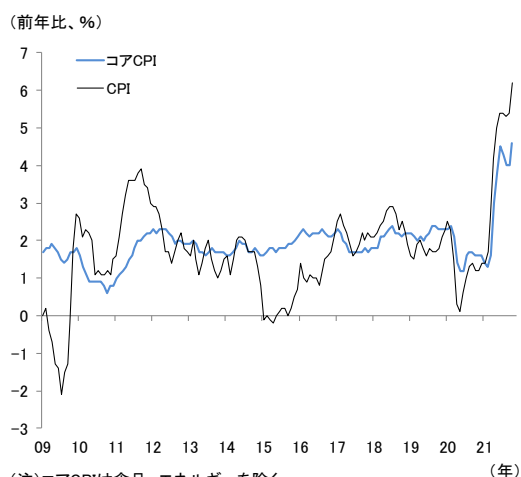
耐久財受注



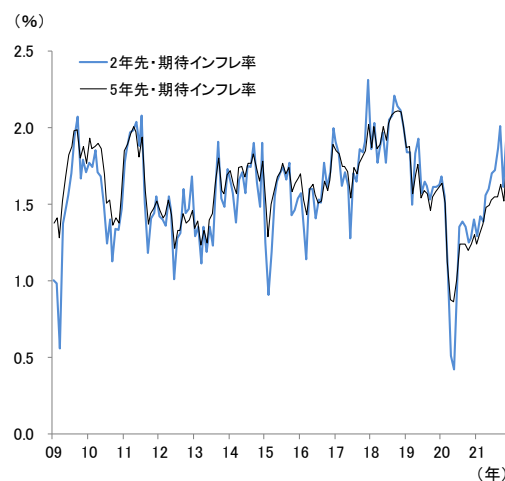
物価動向

- ◆ 10月のCPI（消費者物価指数）は前年比6.2%上昇した。ほとんどの品目で価格が大幅に上昇し、既に高水準であった前月から伸びが加速して1990年12月以来約31年ぶりに6%台の伸びを記録した。コアCPIは同4.6%上昇し、約30年ぶりの高水準となった。
- ◆ 11月の2年先期待インフレ率は1.96%となった。前月から上昇し、2.0%を超えた9月以来の高水準となった。5年先期待インフレ率は1.71%となり、2019年5月以来の高水準となった。
- ◆ 11月末のWTI原油先物価格は66.18ドル/バレルとなり、10月末の83.57ドル/バレルから下落した。米国や日本などが協調して石油備蓄の放出を発表したほか、新型コロナウイルスの新変異株の感染拡大による需要減が懸念され、下旬にかけて急落した。

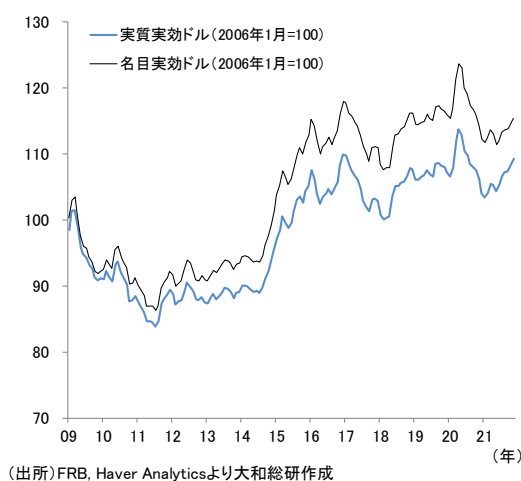
消費者物価指数



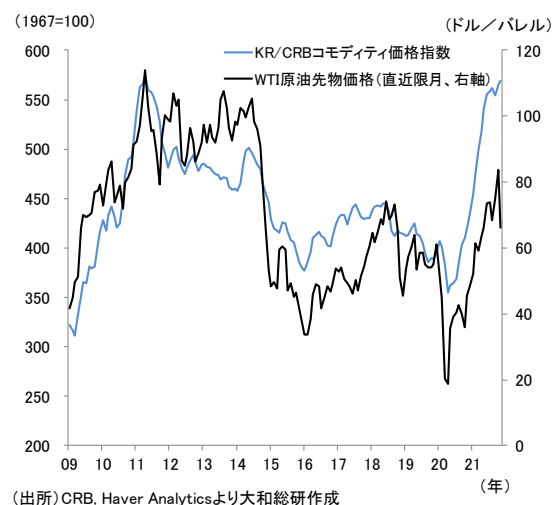
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



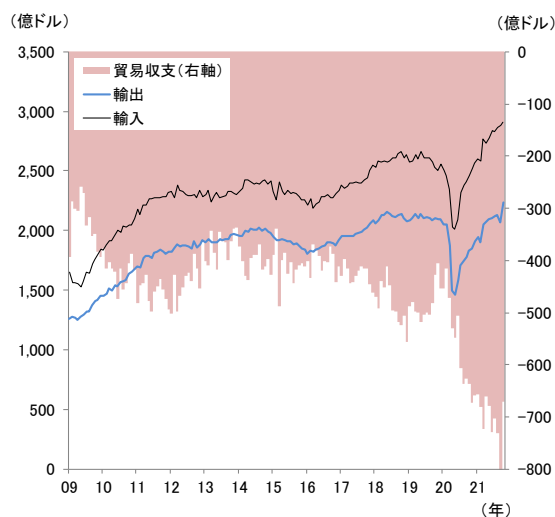
コモディティ価格



輸出入・経常収支

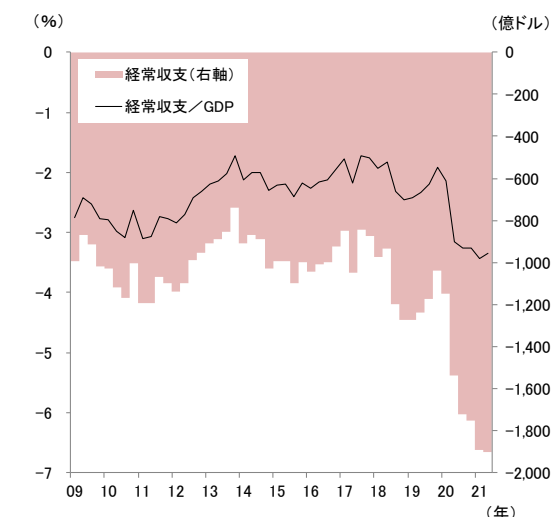
- ◆ 10月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比8.1%増加し、輸入は同0.9%増加した。この結果、貿易赤字は同17.6%減の671億ドルと、大幅に増加した前月から著しく縮小し、2015年4月以来の大幅減となった。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では原油などの工業製品・原料が主に増加し、輸入においては自動車・同部品・エンジンの増加が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けの輸出が前年比12.6%増と増加に転じたほか、欧州向けの輸出が同25.9%増、日本向けが同30.7%増加し、ともに7ヵ月連続で二桁台の大幅増となった。輸入に関しては、中国からの輸入が同7.3%増、欧州からは同13.7%増となった一方で、日本からの輸入は同6.2%減と8ヵ月ぶりに減少に転じた。

貿易収支動向



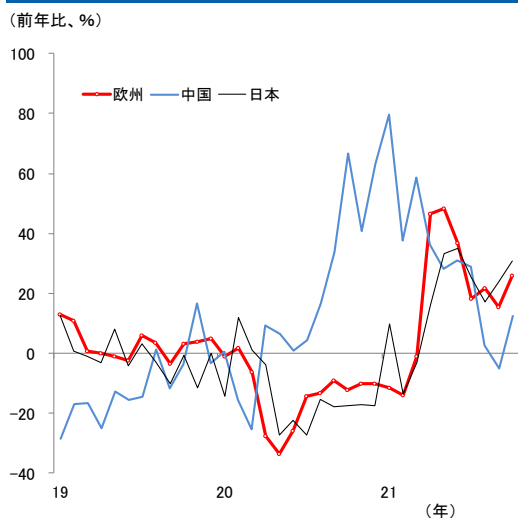
（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

経常収支の推移



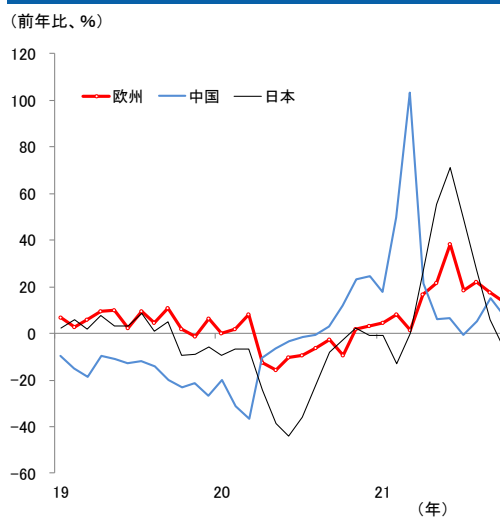
（出所）BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸出動向



（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸入動向

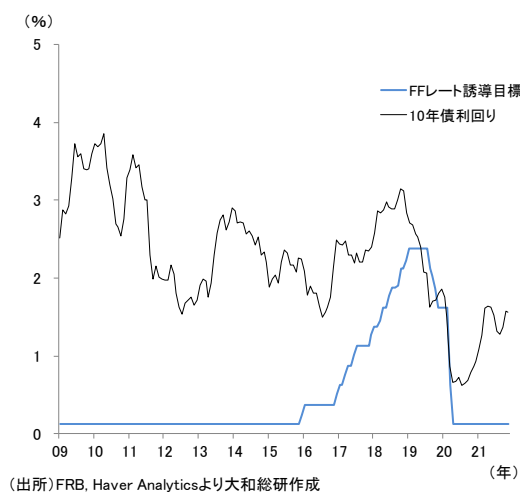


（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

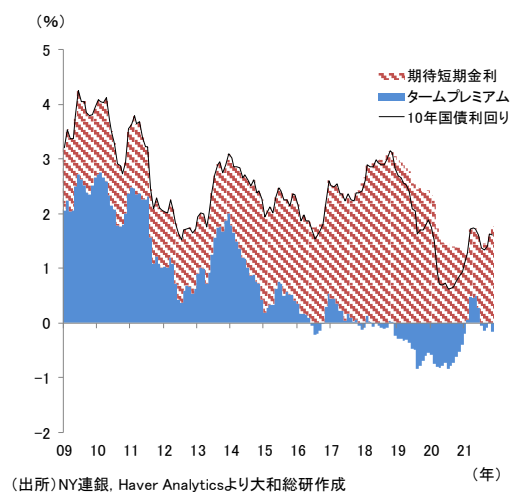
金融・財政

- ◆ 11月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジが0.00-0.25%で据え置かれた。また、量的緩和の段階的縮小（テーパリング）を11年半ばに開始し、国債などの購入を月額150億ドルずつ減少することが公表された²。12月1日の週のFRBの資産残高は平均で約8兆7,000億ドルであった。
- ◆ 11月の長期金利（10年債利回り）の月中平均値は1.56%となった。インフレ懸念が高まり上昇基調にあったが、新型コロナウイルスの新変異株の感染拡大懸念から下旬にかけて急降下した。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は赤字幅が高水準で推移しているが、3ヵ月連続で縮小した。

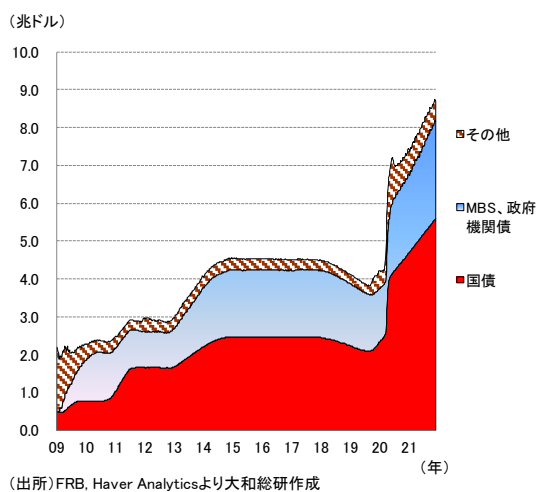
政策金利・長期金利



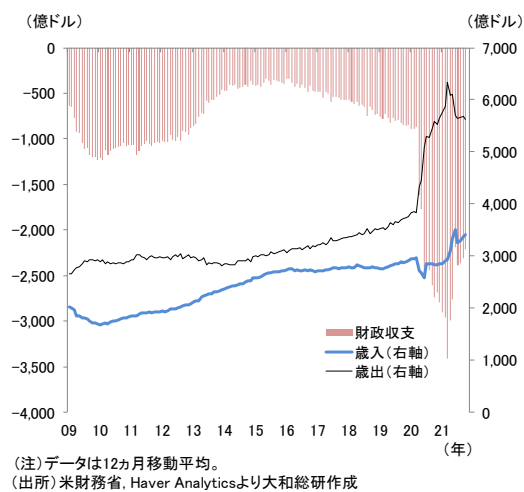
タームプレミアム(10年)



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支



² 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「FOMC 想定通りテーパリングの実施を公表」(2021年11月4日)参照。https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20211104_022629.html